

社会ニーズに応じて事業推進

一挙紹介

会長は、昨年6月に(一社)和歌山県産業資源循環協会の会長職に就任。全国初の女性会長として業界に新風を吹き込んでいる。

同社では、女性社員が全体の約7割を占めており、その能力が十分に発揮できるように、社内環境の整備を図ってきた。赤ちゃんと一緒に出勤できる体制を整え、女性の管理職登用、きめ細かい勤務時間選択制の導入などを推進。こうした取り組みが高く評価され、20年には和歌山県から「女性活躍推進賞」を受賞している。

松田会長は、「私たちがの仕事は地域の理解がなくてはならない。業界を取り巻く状況は目まぐるしく変化しているが、これまで積み重ねてきた地道な努力と知識にしっかりと根を張り、社会に必要な事業としてさらに成長していきたい」と話している。

このシステムを作り上げた松田美代子

「社会的インフラ事業周知へ」

ヤマモトホールディングス

グループ一丸でSDGs推進

ヤマモトホールディングスは、顧客や社会から信頼される企業「ファースト・サービス」を掲げ、603・5500「1」を目指し、201

レックス

グループ11社でサービス拡大へ

新たなスキーム構築にも注力

レックス(大阪市、設立した。20年10月に塩見頼彦社長、606は、高精度選別によるRPF製造等を手掛けるマルサンを「レックスSR」、特許技術で廃油・汚泥等から再生燃料を製造するリマテックを「レックスRF」に名称変更。その営業と経営、財務、リスクの管理業務を担当し、実質的な経営統合を図っている。

同社は2016年、再資源化事業会社であるマルサン(大阪府吹田市)とリマテック(同府岸和田市)の営業部門を統合運営する形で

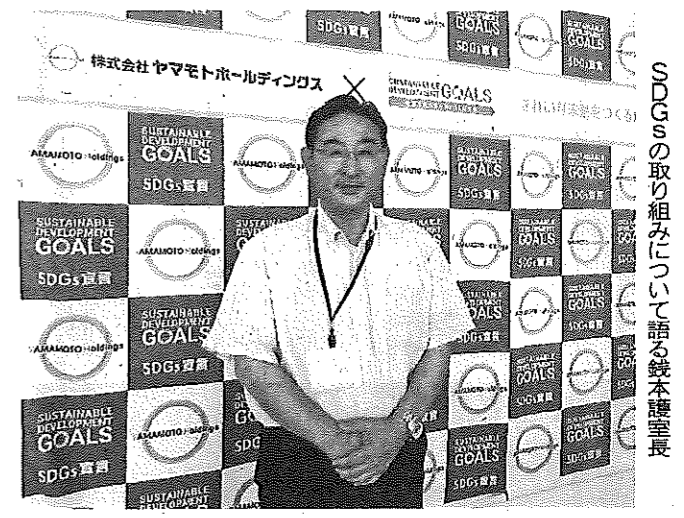
レックスグループ各社の役割は、▽廃棄物再資源化・施設運転管理▽レックスRF、レックスSR、リマテック九州▽廃棄物再資源化・技術研究開発▽リマテックR&D▽資源循環サービス▽リマテック環境システム開発

レックスグループ各社の役割は、▽廃棄物再資源化・施設運転管理▽レックスRF、レックスSR、リマテック九州▽廃棄物再資源化・技術研究開発▽リマテックR&D▽資源循環サービス▽リマテック環境システム開発

レックスグループ各社の役割は、▽廃棄物再資源化・施設運転管理▽レックスRF、レックスSR、リマテック九州▽廃棄物再資源化・技術研究開発▽リマテックR&D▽資源循環サービス▽リマテック環境システム開発

レックスグループ各社の役割は、▽廃棄物再資源化・施設運転管理▽レックスRF、レックスSR、リマテック九州▽廃棄物再資源化・技術研究開発▽リマテックR&D▽資源循環サービス▽リマテック環境システム開発

レックスグループ各社の役割は、▽廃棄物再資源化・施設運転管理▽レックスRF、レックスSR、リマテック九州▽廃棄物再資源化・技術研究開発▽リマテックR&D▽資源循環サービス▽リマテック環境システム開発



SDGsの取り組みについて語る錢本護室長

9年2月に「SDGs宣言」を行った。「環境保全への取り組み」「社会への責任」「ガバナンスの取り組み」を柱に、グループ一丸となって活動を推進。「生活を支える社会的インフラ」として、事業の意義を周知していく。

同社グループの中核企業である山本清掃は1949年に創業した。現在は、△エム・アール・シー▽アイリン▽京都建物総合管理▽下屋敷商店▽高野清掃▽下屋敷商店▽高野清掃▽下屋敷商店▽高野清掃

場では、古着・古布を焼却せずに可能な限り再利用を推進することで、資源保全とCO₂削減を推進している。「社会への責任」では、高齢者や障がい者が安心して安全に働くことができる職場づくりを促進。今は障がいを持つ従業員が12人在籍し、「京都はあどふる企業」に認定されている。また、JICA(国際協力機構)と連携し、海外からの視察団の受け入れも積極的に行ってきた。

具体的な活動を挙げると、「環境保全の取り組み」では、小学校など教育機関での「出前環境学習」を2014年から行っている。近年はSDGsへの関心の高まりもあり、大規模な中間処理、資源物のリサイクル、機密文書裁断など、幅広く事業を展開している。「山本清掃創業時が「京丹波ウエス」の工

「ガバナンスの取り組み」では、▽日本SME格付けを取得し、財務状況を見える化▽透明性の高い絶対評価による人事制度の導入▽防災・減災への対策について計画立案し、中小企業庁「事業継続力強化計画」の認定を取得。などがある。

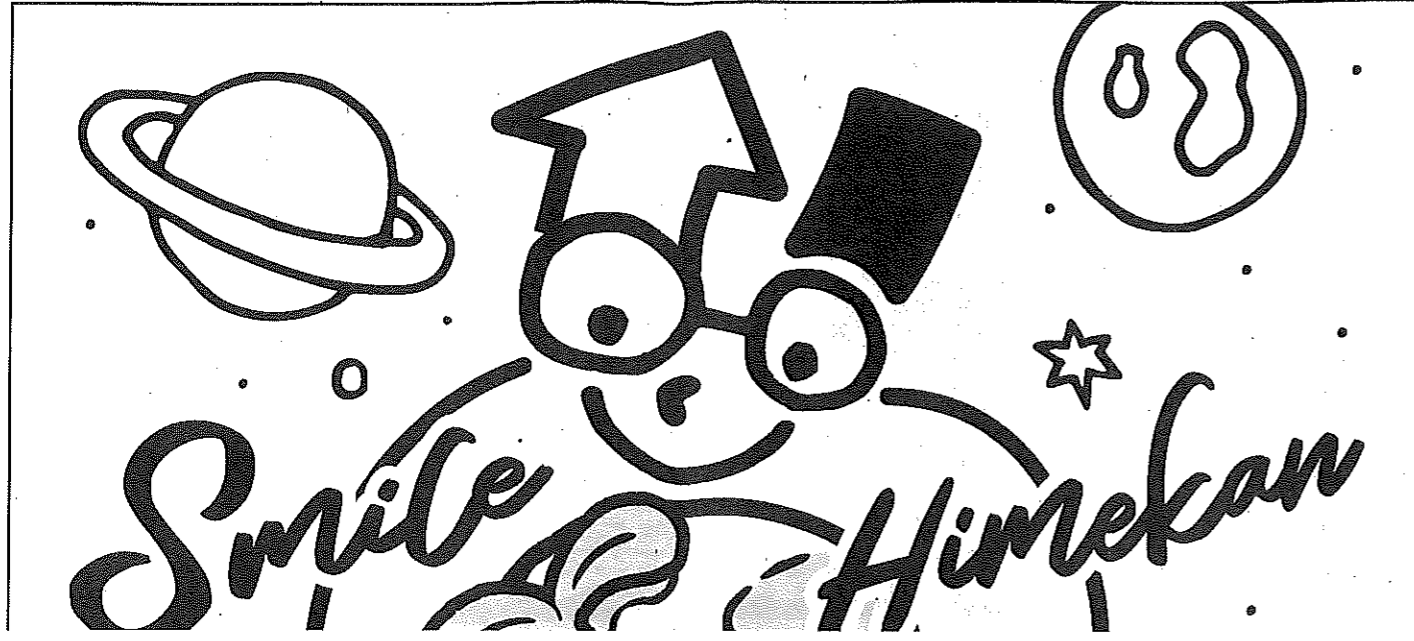
同社社長室の錢本護室長は、「積極的な情報発信を通じて、業界の認知向上を図っていきたい。末永くお付き合いいただけるビジネスパートナーの発掘にもつながると期待している。」



BCCT総合研究所——アンスを生かし、迅速となつていく。現在、提携企業は全国100社以上に広がり、大阪・東京の2拠点を中心にネットワークを展開する。

二一の多様化に対応し、新たなリサイクル手法の確立と再資源化スキームの構築を進めてきた。グループ会社のエコリンクは、エゼロカーボンファウン社として、今年6月に設立。PET樹脂原料メーカーとの協働により、PETボトルの「ボトルtoボトル」の取り組みを推進している。

同社の北野剛取締役は、「今後も、従来行ってきた資源循環サービスのさらなる向上を図るとともに、脱炭素も含めた多様な選択肢の中から最適な資源循環サービスを提供できるように努めていく」と話した。



日経ビジネス 公式SNS

週刊 循環経済新聞以外の情報も配信中!!

LINE公式アカウント ID: @eco-tarokun

Facebookもチェック https://www.facebook.com/nippo.biz/

4 人の思いをみんなに 人財育成の新しい提案 廃棄物の知識を全ての人へ。 YouTube